

<清水庁舎の耐震性能の変化>

	2022年度時点の評価	2025年3月時点の評価
静岡県耐震性能ランク	II	III
倒壊の危険性	低い	低い
安全性の確保	高い	余震時に安全確保が困難になる場所が発生する可能性がある
被災後の業務継続	課題がある	建物全体に変形が残る可能性がある

2022年度時点の評価は第二次診断法：旧耐震建物の終局性能を評価する手法。
2025年度時点の評価は第三次診断法：終局性能の詳細評価。

時刻歴応答解析：入力した地震波に対する建物の挙動を精緻に評価する解析手法。清水庁舎の評価では、国が作成した南海トラフ巨大地震動（SZ02など）を含む複数の地震動を入力しており、長周期成分を持つ波も含まれるため、建築基準法のL2地震動とは性質が異なる。

二次診断・三次診断：ランクはIIからIIIとなったが、倒壊危険性に関する定性的評価（低い）は変わっていない。

倒壊危険性評価は「低い」で同じ

2022年度時点の評価と2025年度の評価は、想定する地震動や解析手法が異なるため、両者の数値や結果を単純に比較して「耐震性能が低下した」と結論づけることは適切とは言えない。